



名称	彫金 寶相華文花瓶
よみがな	ちょうきん ほうそうげもんかびん
指定	市指定
種別	重要文化財
種類	工芸品
所在地	城町一丁目 2-1 (三原市教育委員会)
所有者	三原市
員数	1口
指定年月日	平成 20 年(2008)5 月 19 日
作者	清水南山
材質	銀製
法量	高さ 14.3cm 口径 8.7cm 最大径 18.0 cm
時代	昭和 4 年(1929)
公開状況	事前に連絡必要 (0848-64-2137)
交通案内	JR三原駅から南へ約 1km

【解説】

寶相華文とは、仏教美術の装飾に多く使われる文様で、花の美しい要素だけを取り出してつくられた空想の花である。古くは唐代に現れ、正倉院の螺鈿紫檀五弦琵琶などにも用いられている。

南山は花瓶の側面を五面に分割し、同じ形の寶相華文を配置している。得意の毛彫で輪郭を刻み、背景には魚々子地と呼ばれる小さな円形の装飾のほか、大きさや形状の異なる数種類の鑿を駆使し、最後に表面を燻して作品に重厚感を出している。